

# 白亜日報

BC 64,997,993 年

10月4日

白亜通信社

## 主な記事

特報 恐竜は絶滅するの  
隕石はどこから来たのか  
新・鳥類たちの暴走  
大陸のゆくえ

3734 3 22

# 巨大隕石が衝突

## ユカタン半島北部 直径10キロ?

地球に衝突した巨大隕石について、北海道大学のニッポノサウルス教授は昨日の記者会見で、衝突地点はユカタン半島付近、直径は十キロメートルに及ぶとの見解を発表した。現場一帯では依然として激しい森林火災が続いており、付近の生物はほとんど死滅したものとみられる。また、隕石衝突により発生した高さ百〜二百メートル

隕石の衝突地点



(2007年の地形)



炎に包まれて落下する隕石 (共電通信)

地球に衝突した巨大隕石について、北海道大学のニッポノサウルス教授は昨日の記者会見で、衝突地点はユカタン半島付近、直径は十キロメートルに及ぶとの見解を発表した。現場一帯では依然として激しい森林火災が続いており、付近の生物はほとんど死滅したものとみられる。また、隕石衝突により発生した高さ百〜二百メートル

光が落ちてくるのが見えましたが、その後、地球が壊れたかと思うくらいに衝撃があり、気がつくとき空が真っ暗に

なっていました。この先どうなるのか不安です。

地球全体に暗黒の世界が広がっている。隕石の衝突によって舞い上がった粉塵が地球を覆っているため、太陽光が遮られているのだ。この暗黒状態は少なくとも数ヶ月は続くと思われている。太陽の光がなくなることで、気温の低下や、光合成を行う植物が枯れてしまうことによる食料不足が懸念されている。毛皮を着こんで寒さ対策は万全という、哺乳類のトリコノドン氏はこの事態に対して「食料がもつかが心配。恐竜のように燃費が悪いやつらはひとたまりもないだろう。」と、足早に木を駆けのぼっていった。爬虫類のヨコビガメ氏は「我々は冬眠するという手段がある。隕石の熱で蒸発した水蒸気のせいで

最近、海のプランクトンが激減しているらしい。このことによって海が酸欠状態になってしまふ可能性があるという。この問題について、北海道大学のモサワウルス准教授にインタビューを行った。プランクトンがほとんど減っているそう

ですが、最近の調査でプランクトンの死が海の底に堆積していることがわかりました。この大量のプランクトンの死が何を分解する

ために水中の酸素が一気に消費されて、海が無酸素状態になるのではと考えています。

光合成の過程で酸化シメチル(白硫)という物質をだしています。この物質は空中で水蒸気が凝縮し、雲ができるときの核となるものです。植物プランクトンがいなくなり、雨が供給されなくなると、空の雲がなくなってしまうかもかもしれません。

酸性雨が降るといってもあるし、これから海のやつらは大変だ、ことつぶやいて池の中に消えていった。暗黒状態の長期化を視野に入れた対策が生死を分かたつことになりそうだ。

三億五千万年前に登場して以来、世界中の海で繁栄してきたアンモナイト。優に一万種類を超えるというこの豪華なる一族の姿が今、消えつつあるという。一説によれば、失踪の理由は一族が誇りとしてきた渦巻きの殻のせいかもしれない。重い殻を背負っているはずなのに動きがでさなくなるため、イカやタコとの食料争いに勝てなかつたのではないかと

たのではないかと。ことだ。他にも、長きに渡る繁栄なかで遺伝子に有害な突然変異が蓄積しており、その影響が無視できないものになっているという専門家もいるが、真相は謎である。いずれにせよ、名門であるが故の保守的な態度が変わり行く環境への適応の足かせとなっているのかもしれない。

北海道大学 21世紀COEプログラム 新・自然史科学創成 国際シンポジウム開催記念  
サイエンスカフェ「地球と生命が織りなす自然史」  
日時：2007年10月4日(木) 午後6時~7時45分  
場所：Sapporo55ビル1階インナーガーデン  
主催：北海道大学 21世紀COEプログラム 新・自然史科学創成  
共催：北海道大学 科学技術コミュニケーション養成ユニットCoSTEP  
ゲスト：鈴木陽行(すずきのりゆき)さん  
北海道大学大学院 理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 教授  
宮城県塩竈市・多賀城市出身  
中京時代は水泳部(平泳ぎ)、大学時代はヨット部  
学生時代にエネルギー資源の研究、「石油の成因」解明に挑戦  
北海道大学 理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 教授  
現在、有機地球化学、埋蔵科学を研究

5日朝刊休まず  
三億五千万年前に登場して以来、世界中の海で繁栄してきたアンモナイト。優に一万種類を超えるというこの豪華なる一族の姿が今、消えつつあるという。一説によれば、失踪の理由は一族が誇りとしてきた渦巻きの殻のせいかもしれない。重い殻を背負っているはずなのに動きがでさなくなるため、イカやタコとの食料争いに勝てなかつたのではないかと

飛ぶことを考える  
北海道大学で明白から「飛翔シンポジウム」が開催される。翼竜、鳥類らが一堂に会して、効率の良い飛び方や羽毛の有用性、鳴き声に関する最新の研究成果を発表する。入場無料。

アモナイトの失踪  
たのではないかと。ことだ。他にも、長きに渡る繁栄なかで遺伝子に有害な突然変異が蓄積しており、その影響が無視できないものになっているという専門家もいるが、真相は謎である。いずれにせよ、名門であるが故の保守的な態度が変わり行く環境への適応の足かせとなっているのかもしれない。

子育てで恐竜  
オビラプトル  
真の愛  
親子愛とは  
昆虫と花の  
愛憎劇  
流行の羽毛  
注目  
カラ

# 週刊古代